

天地

ネットワーク テーブル 436号

発行：天地シニアネットワーク／2016・11・14

TENTI・TODAY

1

会員の広場 「ALL桐朋同窓会」「動画コーナー」

2

連載作品

3

随 想	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙をはかれー 13. ニュートン - 質量をはかれ	伊那 開歩	3
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語 (12) <東山山麓3, 真如堂>	大竹 漢洲	6
随 想	NHKの大河ドラマに期待する井伊直虎の話	喜多川貞男	8
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」「すどう美術館」		11
事務局			12

TENTI TODAY

トランプ新大統領の誕生には、世界中が驚きましたが、一番ビックリしたのは、ご本人だったのではないでしょうか。過激な発言を繰り返し、実現性に乏しい内容でしたが、今後いかに現実的なものにしていくのか注目されます。米国だから何事もなくできる、は考えにくいところですが、世界の政治が変わっていかざるを得ないのは明白です。新聞やTVの報道が、99パーセント的外れだった事実は大事です。日本がどのように今後進むのか、国民一人ひとりが、あらためて考えなおす時期が来ています。経験よりも想像力が求められる時代です。

小学校時代の担任の先生、90歳になっても一人で元気です、と時々この欄で紹介させていただいているが、最近、ネット通販でカニを買ったので、家に来るよう誘われました。時々は買い物出るそうですが、ネット通販は良い、と大変お気に入りの様子。無駄な買い物をしないようにとご注意申し上げましたが、カタログを見て楽しんでいるとのことなので、余計なお節介と感じています。

中国の若者のネット通販の爆買いが報じられていましたが、ネットになじんだ高齢者にとっては、便利なので日常的な利用が増えそうです。

NHKの朝ドラ「べっぴんさん」、現在、戦争直後の闇市が主舞台になっていますが、今一つ物足りません。7-8歳のころJR中央線吉祥寺駅前の闇市で遊んでいましたが、もっと狭くて汚く、ゴチャゴチャしていました。行き交う人は、背が小さく痩せていましたが、テレビで見る俳優さんは、大き

くて太っていますので、現実感がありません。韓国ドラマの俳優さんの方が、もっと役に徹しているというのが我が家の一貫した意見です。

かつて大手スーパーの部長だった、Sさんが事務所に時々寄ってくれます。昔からダンディーな方でしたが、いつも帽子をかぶり、サングラスをかけて現われます。昼食に行くと大抵の店で、まずギョッとされます。その筋のお兄さんに見えるようです。眼鏡をはずすと、愛嬌のある優しい顔が現れますので、一件落着です。お付き合いを楽しんでいます。

会員の広場

11月6日（日）に渋谷の東急セルリアンタワーで、**ALL桐朋同窓会**があり、同期幹事から招集がかかり初めて出席してみました。

桐朋は、戦争で財を成した山下汽船のオーナー山下亀三郎氏が、戦前作った山水高等女学校（現・桐朋女子高等学校・京王線仙川）、山水中学校（現・桐朋高等学校・在国立）が前身で戦後に桐朋学園として再スタート、男女・別々の普通校となりました。その後、仙川に音楽部門が併設され、さらに演劇科ができ、現在は音楽・演劇の短大もあるようです。

従って同窓会が6つあり、それが合同でしたから、当日は1200名の参加者による大パーティーでした。「桐朋」といえば『音楽』の方が有名で、普通校出身者は、母屋を取られた感じがします。当日あった世界で活躍するソリストたちが集まった演奏会は、音楽科がないと聞けませんから致し方ないところですが、男子校出身者は、今年の東京6大学野球の東大チームのレギュラーに桐朋出身者が二人いた、という程度の話題しかないので意気が上がらないのも無理なしです。（津田）

<動画コーナー> (小泉)

先月（16～18）、北海道東へ行ってきました。一番の目的が「帯広ばんえい競馬」でした。本当は雪降る季節に行きたいのですが、開催日の関係で中々予定と合わせずに行けませんでしたが、雪を諦めて行ってきました。

お断りしますが、競馬で賭け事を！ではありませんよ！！あの重いソリ（約1トン）を懸命に曳く馬を見たくて・・・。

旅日記なので沢山になりました。

羽田から

<https://youtu.be/Pu3inmWBisY>

幸福駅から愛国

https://youtu.be/kfnCof7_XF8

カラマツの並木道

<https://youtu.be/clkctBylu90>

帯広ばんえい競馬-1

<https://youtu.be/ySFi9cDjCqo>

帯広ばんえい競馬-2

<https://youtu.be/BEsA1gE8MJA>

霧の摩周湖は本当

<https://youtu.be/zh5740PtP2o>

釧路湿原を列車で

<https://youtu.be/qu1mWhpoixE>

北方4島への叫び

<https://youtu.be/qhhEdc0yS2U>

国後島に近い半島

https://youtu.be/m_B6CePQisU

知床半島クルーズ

https://youtu.be/_MgHb0gjfko

知床の自然を歩く

https://youtu.be/4R-jM_8Lx5c

連載作品

天のわざ、地のほまれ — 地球を測れ、宇宙をはかれ —

伊那 闊歩

13. ニュートン－質量をはかれ

17世紀のヨーロッパ、進歩的な知識人たちには古臭いスコラ哲学に飽きあきし、プロテstantの勃興によりカトリックの桎梏から解放されて、この世の森羅万象に新しい観点を見出しあじめていたと思われる。本来の聖書とは異なるもうひとつの聖書“自然”を深く見つめ直す機運が高まっていたのだ。

英國の歴史学者（科学史家）ハーバート・バターフィールド（1900-1979）は、この時代に起こったことは、まさに「科学革命」であり、この革命によって近代科学が成立したと主張する。革命の立役者は（16世紀の）ニコラウス・コペルニクスを嚆矢として、ヨハネス・ケプラー、ガリレオ・ガリレイそしてアイザック・ニュートンであった。

この時代の英國の哲学者（法学者、神学者でもある）フランシス・ベーコン（1561-1626）は「知は力なり」という言葉によってよく知られているが、その著書『ノーヴム・オルガヌム』に4つのイドラー（偏見、アイドル）が世にみとめられると書いている。

（1）牢固たる権威によるイドラー（劇場型イドラー）：この代表的な例が、地動説には聞く耳をもたず、天動説に固執し権威によって、人びとを押さえつけるキリスト教（僧侶たち）のイドラー。

（2）伝聞、うわさに基づく偏見（市場のイドラー）：根拠がないにもかかわらず、もっともらしく見えるイドラー、迷信。

（3）無知による偏見（洞窟のイドラー）：いわゆる「井の中の蛙」のこと。

（4）人間の本性や錯覚に基づくイドラー（種族のイドラー）：これによって自然現象の眞の姿を見誤る。

これら人のイドラーを観察すると、人は思い込むとすべてをそれに合致するように作り上げてしまう。なにか思い込みに反する事がでてきても無視するのである、とベーコンは言う。人間の生活は、科学の新発見や新しい技術、資材などによって豊かになるのであるから、国家は科学を支援しなければならぬと主張した。英國がこの時期「王立協会」や「科学アカデミー」を創設したのもベーコンの思想が大きく影響したといわれている。アイザック・ニュートンも60歳になって、王立協会の会長に選出されたのだ。

アイザック・ニュートン（1642-1727）は、
万有引力の法則：ふたつの物体の間には、それらの質量の積に比例し、距離の2乗に反比例する引力がはたらく
を発見したとしてあまりにも有名であるが、じつは、同時代の物理学者（建

築家、博物学者) ロバート・フック (1635-1703) をはじめとして、この法則にニュートンに先んじて、すでに気がついていた科学者は、少なくなかったようである。かれらは、証明することができなかつたが、ニュートンはその証明を大著『プリンキピア』のなかで、だれひとり異議をとなえることができないような完璧なかたちで提示したのである。今や、万有引力の法則の発見者は、アイザック・ニュートンであることに誰も異論はないであろう。なお万有引力の法則については後の回でくわしく論じることとしたい。

ニュートンの偉大な功績は、万有引力の法則の発見よりもむしろ力学 (ニュートン力学) を創成したことにある。万有引力の法則は力学のなかのひとつの応用問題なのだ。かれは、まず物体の「質量とはなにか」その定義からはじめなければならなかつた。

物の質量とは、その重さのこと！ 簡単ではないかと思える。しかしながら、それは地球上のこと、たとえば、地上で 120 キログラムの鉄の玉を月にもつていったとする。月の表面での重力は地上でのそれの $1/6$ であるから、月面での重さは 20 キログラムになる。地上ではたいへん重かった鉄の玉が月面上では軽くなり、持ち上げができるようになるであろう。では、その差 $120 - 20 = 100$ キログラム分の質量はどこかに消えたのであろうか。もちろん、質量が消えたのではない！

また、国際宇宙ステーションの中は重力ゼロであるから、人も物も固定されてなければ、ふわふわとステーション内部を浮遊する。120 キログラムの鉄球も空間を自由に浮遊するであろう。このような状況で、質量をどうして測つたらよいのであろうか。どのようにして鉄球の質量が 120 キログラムであることを確かめることができるのであろうか。

月面に殆ど摩擦抵抗のない平面を作り、そこにこの鉄球を置いて押してみる。重さ 20 キログラムになっているのであるから、簡単に転がすことができると思われる。しかし、じつは鉄球から受ける抵抗は地上と変わらず、ずつしりと重くかんじられるはずである。その「動きにくさ」は地上となんら変わらない。物を移動させるとき、その「動きにくさ」をその物体の慣性という。この地上で 120 キログラムの鉄球が月面上を月面上に沿って動き出したとして、それを再び静止させようとすれば、鉄球から地上でも月面上でも同じ抵抗を受けるのだ。また、海上でゆっくりと接岸しようとしている大型船の動きを止めようとしても、とても人ひとりの力では無理である。船の速度が小さくとも質量が大きいためにほかならない。運動の「止めにくさ」は「動きにくさ」と本質的に同じもので、どちらも物体の慣性なのである。

こう考えてくると、物体の質量は重量ではなく、慣性を数値化したものではないか。ニュートンも質量の定義については、たいへん苦慮したと思われる。『プリンキピア』の冒頭で、質量は次のように定義される：

定義 1. 物質の量、すなわち質量とは、物質の密度と体積の積である。

$$\text{質量} = \text{密度} \times \text{体積}$$

この量は、私 (ニュートン) が精密に行った振り子の実験により、重さに比例することが見いだされた。

この邦訳文は、和田純夫「プリンキピアを読む — ニュートンはいかにして

万有引力を証明したのか」（講談社ブルーバックス）から引用させてもらった。しかしながら、この定義は、はたして定義になっているのかどうか疑問である。というのは、ニュートンは「密度」というものが既知で自明の概念であるとしているからである。通常、密度は単位体積あたりの質量と定義される。

念のために、定義 1 の英訳（Andrew Motte 『PRINCIPIA』）を見てみると
Definition I The quantity of matter is the measure of the same, arising from its density and bulk conjunctly.

となっており、この英文はじつに分かり難い。

河辺六男責任編集「ニュートン」（中央公論社、世界の名著 31）の訳をみると「物質量とは、物質の密度とおおきさとをかけて得られる、物質の測度である」となっていて、何のことやらよくわからない。（高校物理の授業ではこのへんを何となくわかった気にさせられるのだ。なお“物質量”は後に示すように、現代物理ではまた別の意味に使用される）

以上のように、質量ひとつ明快に定義（文章化）するのもたいへんなのである。今でこそ、地上の重力によって量られた質量（重力質量）と慣性を数値化した質量（慣性質量）とは比例することが明確にわかっているので、これらが一致するものとして質量の単位を決めることができるのであるが、なにもかも漠然としていた当時、さぞやニュートンは苦労したにちがいない。

質量の基本単位は、もともとグラムであったが、現在はその 1000 倍のキログラム（kg）を基本単位として採用している（グラムは基本単位として小さすぎたのだ）。ところが、キログラムをどう定義するか、世界度量衡会議で簡単明瞭に決定できないようなのである。そんなこと簡単ではないか、純水 1 リットルの重さを 1 キログラムと決めておけばよい、と思われるかもしれない。この測定値が一定で不変なら何も問題ない。しかし、測定の際の水温や場所、大気圧の変動によって、いくらでも誤差が生じる。人の日常生活には、ほとんど影響はないが、精密な実験などを行うためには、これでは困る。とりあえず、原器を作つておこうということになり、1889 年に国際キログラム原器がつくられ、パリの国際度量衡局に現在も保管されているそうである。

キログラム原器は、プラチナ 90%、イリジウム 10% の合金によってつくれられていて、2 重のガラスの気密容器の中に保管されているそうであるが、それでも歳月とともに変形し劣化していくであろう。そこで、考えだされたのが、アルベルト・aigneau シュタイン（1879-1955）が、その“驚異の年 1905 年”に世に問うた 2 つの理論『特殊相対性理論』と『光量子の理論』に提示された 2 つの公式を組み合わせて、キログラムの定義式を作るというものである。こうして、高度に人工的なキログラム定義式ができたのであるが、ここにつかわれたプランク定数（量子力学の基本的定数）の精度が十分でないことなどの問題が生じ今なお棚上げされている。

いろいろな物理量のうち、質量をキログラム（kg）で、長さをメートル（m）で、時間を秒（s）で測る単位系を MKS 単位系という。これに、電流の単位アンペア（A）、（絶対）温度の単位ケルビン（K）、光の光度の単位カンデラ（cd）、物質量の単位モル（mol）を加えた単位系を国際単位系 SI という。すべての物理量はこの 7 つの単位をもちいて書き表せるのである。

＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（11）

大竹 漢州

東山山麓3, 真如堂

「真如堂」は京都市左京区の市内の中南部にある大伽藍の寺院です。東山から連なる起伏に富んだ地域にあります。今日では、四囲が閑静な住宅地の中にある庶民に開かれた寺院になっています。

真如堂は比叡山を本山とする天台宗の寺院です。正式には「鈴聲山真正極樂寺」と言います。通称が真如堂です。

「真如堂」の寺号の意味に気に掛かりました。小さなことにも気に掛かる性格です。「真如」は何を意味しているのか? 又、旅人は若い頃、シルクロードの仏教遺跡を訪ねてインドまで旅をしました。その際に真如上人を知りました。今から1150年前に、真理を求道してインドに旅した僧侶です。旅人が先人として尊敬している人物です。「真如堂」と何か関係があるか調べてみました。本題に入る前に、先ず余談です。

その1・仏語編「真如」とは、梵語・tathataで、一切存在の真実の姿を意味しています。即ち、この世界の普遍的な真理を指しています。大乗起真論という仏典では、不变真如と隨縁真如を立てています。これ以上真如を追求すると真実の姿を見失うので止めます。

その2・人物編。平安初期に「真如」と名乗る件の僧侶の略歴は、真言宗の僧で、平城天皇の皇子で、嵯峨天皇の皇太子となり、名は高岳親王です。この皇子は、興味深い人物です。東大寺で「三論」を学び、空海から密教も学んでいます。

余談の余談です。「三論」も調べて見ました。三論宗の依る3種の論で、即ち龍樹(インドのバラモン教の僧・「空」の思想を説いた人物)の「中論」「十二門論」と龍樹の弟子提婆の「百論」を指して三論と言います。

余談に戻ります。「三論」と密教を学んだ真如は、人唐を果たしています。そして真の「三論」を求めてインドに渡る決意をしますが、途中で没して目的を果たせませんでした。歴史に"もし"は禁句ですが、インドで「三論」を学び、帰国していたら玄奘三蔵に並ぶ人物であったでしょう。興味深い人物でしたが、真如堂とは全く関係の無い人物でした。残念です。

「真如堂」の正式な寺名は「鈴聲山真正極樂寺」です。余談です。その1で書いた通りに「真如」は仏教用語で「一切の存在の真実の姿」「この世の普遍的な真理」と解釈されています。本山は比叡山の延暦寺を本山とした天台宗派の寺院です。今から1000年前に比叡山の戒算上人が、比叡山・常行堂の本尊、阿弥陀如来像をこの地に近かつた東三条女院(藤原詮子)の離宮に移して安置したのが「真如堂」の始まりです。992年(正暦3年)に一条天皇の勅許を得て本堂が創建されました。真如堂のご本尊は、比叡山延暦寺で慈覚大師円仁が造仏したと言われる阿弥陀如来像です。完成間際に大師が眉間に白毫を入れる際に、「修行者をお護りください」と祈る

と、如来は首を横に振り、大師は「衆生、女性をお救い下さい」と、再び祈ると「頷いた」と言う伝説が伝わっています。如来が頭を垂れた姿から「頷きの阿弥陀如来」とも呼ばれます。印は「全ての人を救う」誓願を表した「九品来迎印」を結んでいます。真如堂が女性に人気のある由縁です。残念ながら真如堂の「頷きの阿弥陀如来」より、女性たちに人気のある如来は、永觀堂の「見返り阿弥陀如来」が思い出されます。両寺院に共通点は、秋の紅葉が美しいことです。

意外なことに、天台宗宗派に属していた「真如堂」が、女性を始め庶民に篤い信仰を受けたのは、その後に一条天皇の勅願寺となり、浄土宗の開祖法然上人、浄土真宗開祖親鸞が、「不斷念佛」の道場を開き開放したことによります。多くの念佛行者、民衆の篤い信仰を集めました。特に女人に深い帰依を受けました。

余談です。「不斷念佛」とは常念佛とも言い、特定の日時を決めて、昼夜間断無く南無阿弥陀仏の念佛を唱える修行です。普通は、24時間。不斷念佛の途中に「五体投地」とか「行道（阿弥陀如来の周りを巡る行）」も加えて念佛修行する事もあります。しかしこの寺も応仁の乱の戦乱大火で焼失してしまいました。この後、時の為政者・足利将軍家や豊臣秀吉の都合で遷座を繰り返して、現在の地に戻って再建されたのは、東山天皇の詔勅で江戸時代に人ってからです。

真如堂は三井家の菩提寺でもあり、初代三井高利を始め、歴代の墓石が並んでいます。再建には徳川綱吉公と桂昌院が寄進したご本尊を納める宮殿もある事から判断して、徳川家と三井家の財政的な援助が大きかった事は推測できます。

余談です。京と町家や寺院は、幕末の薩摩藩と長州藩とで戦った蛤御門の変で再び焼失しています。真如堂の本堂から墓地を抜けると会津墓地に至ります。かつて黒谷に会津藩邸があり、会津藩のお預かりであった新撰組の屯所が置かれた地でした。幕末の歯車に齟齬を來して、薩摩藩、長州藩と会津藩とは敵対関係と成って、政争や戊辰戦争で多くの人々の命を落とした会津藩士の遺体を埋葬し、慰靈するための共同墓地です。墓石の大半が、神道形式になっているのは、会津藩主が神道の信奉者だったからです。

今日、京都に残っている建造物は、明治時代以後に再建されたもので、江戸時代に建立された寺院は教えるほどしかありません。

総門を潜ると、本堂に向かって幅の広い石段が緩やかな傾斜をもって続いています。今が盛りの紅葉の樹木は色鮮やかなトンネルの如く本堂まで伸び、真っ青に晴れた秋空の下には、色取り取りの紅葉樹に囲まれた三重塔屋根が見えています。本堂には履物を手にして右手の入口から入りました。本堂拝観後に東側に広がる庭園を巡ります。

本堂には本尊「頷き阿弥陀如来」を中心にして、左には陰陽師安倍晴明の念持仏であった不動明王像が、右には伝教大師作と伝わる千手觀音像が祀られています。3月には本堂で巨大な涅槃図が公開されます。過去に旅人には大混盤図を拝む機会がありました。西陣織の絵図で入寂した釈迦尊を囲み十大弟子や、生類が嘆き悲しむ様子が綴られているのを記憶しています。天界の摩郁夫人が投げた薬包が、高い樹枝に引っ掛かっているのが印象的でした。本堂から西に向かうと書院に至ります。書院の東側に涅槃図を大地に表現し

た「涅槃の庭」があります。

新しく作庭された庭園です。1988年作。ガンジス川支流にあるクシナガラの沙羅の林の中で、北(向かって左側)を頭にして入寂された様子が表現されています。その回りで哀しみ泣き崩れる弟子や衆生、生類たちの姿を石組・白砂、植栽で表現されています。涅槃図の通りに南には菩提樹の代わりに大杉が植えられていました。

残念なことに薬包はありませんでした。借景の庭で垣根の向こうには、大文字山など東山が横たわっています。東山を借景にしている庭園は、円通寺・正伝禪寺・真如堂です。

書院から持仏堂に渡る回廊の南側にも、今世紀に入ってから作庭された新感覚の庭園があります。「隨縁の庭」と名が付けられています。「隨縁」とは仏教用語で“事象が縁によっていろいろな現れ方をする”との意です。仏堂の墓股に彫られた三井家の四つ目の家紋を意匠化した庭です。広い平面を直線で大小幾つかの方形に区切って、その方形に白砂と黒砂、茶色に着色された砂を敷き詰め、大小の石と高低差のある樹木を植栽したリズム感のある庭園です。観る角度で印象が変わるもの面白い趣向です。

本堂に戻って入口の反対側の階段から降りて、東側の庭園を散策しました。陽に照らされて鮮やかな紅葉樹の間に薬師堂・万靈堂・宝蔵の堂宇が配置されています。変化に富んだ庭園があり、散策して飽きません。

紅葉は青空を背景にして、陽に照らされた葉々を見上げるのが一番です。昨年(2014年)の真如堂は、生憎曇天で、時折冷たい雨が降って、紅葉狩りは散々であった事が思い出されました。美しく均整のとれた三重塔を見上げて、真如堂を後にしました。

NHKの大河ドラマに期待する井伊直虎の話

喜多川貞男

江戸時代の島津だとか毛利だとか伊達だとかの大名はどこの大名かと聞かれたら、まず誰でも答えられるだろう。しかし「井伊」はと聞かれたら、ちょっと躊躇するかもしれない。それでは井伊直弼(いい・なおすけ)は?、と聞かれたら幕末の幕府の要人(大老)で桜田門外で水戸の浪士たちに襲われて死去した人物だと、日本人ならまずまず答えられよう。そして、その井伊大老というのは江州(現在の滋賀県)彦根藩の殿様だったんだということが分かるのである。

ところで、年明けの正月から始まるNHKの大河ドラマの主人公が「井伊直虎」だと言われても、そんな人物はだれも知らないというのが当たり前のこと。それは井伊直弼のご先祖だと言われたら、江州(滋賀県)は彦根の人だろうと推測するしかない。しかし、それが滋賀県でなく静岡県西部地方の歴史上の人物だとなると、ますます混乱して分からなくなる。しかも井伊直虎なる人物は女性なんだと言われると、仰天してしまうだろう。天下のNHKは何を考えているのかと訝るかもしれない。

実は、井伊直虎なる人物は井伊直弼のご先祖で戦国時代の静岡県西部地方(遠州)の人物で男性ではなく女性なのである。それが年明けからのNHK大河ドラマの主人公だと聞いて、一番驚いたのは静岡県西部地方の人たちである。

そんな人物の名前はご当地でも未だかつて誰れも聞いたことがなかったのだから、当惑してしまった。調べてみると確かに歴史上の人物で、井伊直弼のご先祖らしいとは分かったが、なんでそれを天下の NHK が大河ドラマの主人公として取り上げたのかが分らない。しかし、ご当地としては観光宣伝には格好の材料だと静岡県西部地方の浜松市はテンヤワンヤである。

徳川家康が関ヶ原の戦いで勝利して天下をほぼ手中に収めたとき、まだ大坂(豊臣)方の勢力を残滅していくなく何時また反攻してくるか分かったものではなかったので、戦いに破れた石田三成が居城としていた江州・佐和山城を奪って大坂方に対抗する拠点とするために、家康は部下の井伊直政を派遣してその城主とし盤石の防衛陣地にしようとしたのだが、井伊直政の後継者は佐和山城でなくすぐ近くの彦根の地が戦略上重要と考え、家康の許可を得て築城したのが彦根城であった。

したがって、家康の許可を得て彦根に城を築いて城主になったのは井伊直政でなくその後継者なのだが、その後江戸時代を通じて代々井伊家が彦根の殿様だったというわけである。しかし、井伊家はもともと彦根の出ではなく静岡県西部地方の浜名湖北岸山中の土豪の出であった。浜名湖北岸の山中にいまも「井伊谷(いいのや)」という地名があり、多分その辺りが井伊家の出自だろうといわれている。

井伊家は、戦国時代この地方を支配していた今川家の家臣だったが、桶狭間の戦いで今川義元が戦死すると今川家は俄かに勢力が衰退してこの地は武田・徳川の草刈り場となり、その間に井伊直政の父親・直親は戦さで戦死してしまった。そのとき後継者であるべき直政は幼少であったため北方の山々を越えて信州(長野県)方面に逃走し、その留守中の城塞を守ったのが女主(おんな・あるじ)の井伊直虎だというのである。

この直虎と称する女主は戦死した直親の妻ではなく元許婚だったということで、幼少の直政の母親ではなかったというややこしい話。

何年かして直政が 15 才になったころ直虎が守っていた城塞に戻ったあるとき、家康が鷹狩りのため三方原の北部を訪れたのを直虎はチャンスと捕らえて少年の直政を家康に引き合わせることに成功、家康は何を思ったか召し抱えることになったという。直虎が何を考えて直政を家康に引き会わせたのか、NHK の大河ドラマを観てみないと分からぬ。

ともかく家康が何を思って直政を小姓として召し抱えたかも分からぬが、戦国時代の武将には男色の癖があったのでそのためではないかとも言われていて、そのために直政には 22 才になるまで元服をさせず前髪姿のままだったという。あるいは、"直政が家康の正室である築山御前の母方の遠縁にあたるので家康はそれを知っていて小姓に取り立てたのではないかとも言われている。しかし家康が素姓も分からぬ少年を小姓として、三河国以来の譜代同然に扱ったのは何らかの理由があったとしか考えられない。NHK 大河ドラマのお楽しみではある。

直政は武田信玄亡きあとの武田勝頼との戦で初陣し、秀吉との小牧・長久手の戦いでは本戦でなく伊勢地方の戦いで軍功があり、秀吉の小田原攻めでは豊臣軍先峰隊となつた家康軍の最前線に立ち、その功績を認められてか家

康が関東に転封になってからは徳川家臣団では最高石高の 12 万石で上州・箕輪城の城主となった。そして、天下分け目の関ヶ原の戦いでは福島正則隊と先陣を争って功名を立てて名を馳せ、石田三成亡きあと江州・佐和山 18 万石の城主に抜擢された。家康家臣団の中でも本田忠勝・榎原康政・井伊直政を「三傑」といい、また酒井忠次を加えて「四天王」ともいうが、井伊直政以外はいずれも家康の三河時代以来の譜代であるのに譜代でもない直政がもっとも優遇され、江戸時代を通じて大老職 9 人のうち 5 人までが井伊家であったということは、直政がどれだけ家康に重用されてその期待に答えるだけの働きをしたか、と思わざるを得ない。

ところで、本題の「直虎」の話をもっと詰めてみなければなるまい。女の城主だったという直虎は、戦国時代の末にそのとき井伊家の当主であった直盛と地場の三千石の地頭だった新野佐馬助の妹との間に生まれた一人娘(生年は不明)だったという。直盛には男子(嫡男)がなかったので、従兄弟の直親を一人娘の許婚にして、ゆくゆくは直親を井伊家の跡継ぎにする予定だった。ところが、直親の父・直満が当時この地を支配していた今川氏から謀反の嫌疑をかけられて殺されたため、当時 9 歳だったその子の直親も命を狙われたので北方の山を越えて信州(長野県)に逃亡して身を隠すしかなかった。9 歳の直親が逃亡して許婚から引き離された娘(直虎)は、井伊家・菩提寺の龍潭(りょうたん)寺に入って出家し、龍潭寺住職より井伊家跡継ぎの証しである「次郎」を冠した「次郎法師」の名が与えられた。

11 年後に直親は無事井伊谷の地に戻ることができたが、許婚の次郎法師は出家していたので結ばれることができず、別の豪族の奥山氏の娘と結婚して待望の男子(後の直政)が誕生した。ところが再び直親は今川氏によって謀殺されてしまったため井伊家を継ぐべきは 2 歳の直政しかいなくなってしまった。そこで次郎法師は男性であることを装って「井伊直虎」なる呼称を名乗って『女城主』となり、直政が井伊家を継ぐことができるまで井伊家の家名を持ちこたえようとしたというのである。

その間に長年井伊家を支配してきた今川氏が桶狭間の戦いで織田信長に破れて衰退し、その替わりに武田信玄が勢力を伸ばして三方が原の戦いが起こり、この地は武田・徳川の戦場となって大混乱に陥った。その後、武田信玄が死去すると武田氏の勢力が弱まり、徳川家康がこの地方一帯を領有して安定した。そして直虎は、直政を呼び寄せて浜松に居城をおいた徳川家康に引き会わせるよう画策したということである。井伊家断絶の危機を寸前で乗り切った直虎は、家康の配下として数々の功績をあげていく直政に安堵しながら、天正 10 年(1582)にその 40 数年の生涯を終えた。

ところで、歴史上あまり知られていなかったのが、ある切掛けで日本人なら誰でも知っている有名人に坂本龍馬がある。あるいは、日本人なら誰でも知っていて最も身近にいたはずだが、本当に実在した人物かと訝しいのは聖徳太子ではなかろうか。井伊直虎なんていう人物は、誰も知らなかったのにひょっとして NHK の大河ドラマをきっかけに飛んでもない有名人になるかも知れない。

そんな新年から始まる NHK 大河ドラマの期待と危うさを思う年末の頃である。

以上

文化講座・講演会・美術展

奈良興福寺文化講座 28年11月17日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

講演：「興福寺を掘る—近年の発掘調査成果」

講師：国学院大学 准教授

青木 敬

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学) 文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

第76回 新三木会講演会のご案内

1. 日時・会場 11月17日(木)13:00～15:00 如水会館スターホール

2. 演題・講師 『英國のEU離脱をめぐる諸問題について』

小平龍四郎氏 日本経済新聞社 論説委員

3. 申込・会費 E/Mail：shinsanmokukai@gmail.com

TEL：047-464-4063(留守録有)

フルネーム・卒年・所属(例:一般・紹介者名)

会費:2000円 婦人1000円 学生無料

茶話会:15:15～14:20 千円(自由参加)

4. ホーム <http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

ページ (「新三木会」で検索可)

5 予告 ●12/15, 第77回 ケント・ギルバート氏 米国加州弁護士 著述家
『日本の戦後を反省する』

●1/19, 第78回 保坂正康氏 歴史家、ノンフィクションライター
『天皇の世紀』(仮題)

●2/16, 第79回 古森義久氏 国際問題評論家
産経新聞ワシントン駐在編集特別委員
『新大統領下、米国の今後の方向』

予告してあった、佐藤勝彦氏 宇宙物理学者、東京大学名誉教授 『宇宙は無から生じた』は講師都合で延期します。

すどう美術館

〒250-0853

神奈川県小田原市堀之内110-2 ベルデュール103

◆電話、メールは変わりありません◆

Tel 0465-36-0740 Fax 0465-36-0739

メール info@sudoh-art.com
ホームページ <http://www.sudoh-art.com>

すどう美術館 コレクション パート 2

会期 10月7日（金）～12月26日（月）

開館時間 10：00～17：00 火曜定休

入館料 500円（小学生以下無料：保護者同伴）

会場 箱根芸術空間 風伯

〒250-0311

足柄下郡箱根町湯本 540-4

Tel 0460-85-7440

事務局

＜事務所までの道のり＞

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号
(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと（都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると）、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。（1階は焼肉屋「もとやま」。）そのビルの2階です。

＜投稿歓迎＞＜図書の推薦依頼＞

＜プリント版・郵送＞

メール版（無料）を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくださいと送ります。その際には、実費として1月350円（4200円/年）をいただいているのでご了承ください。

＜振込先＞振込先：三井住友銀行「神田支店」（普通）7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

＜配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。＞

天地シニアネットワーク・テーブル・436号

発行：2016年11月14日

：天地シニアネットワーク事務局（津田 孎人）

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室
TEL・FAX 03-3837-0290
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp
URL <http://www5a.biglobe.ne/~tenti/>